

(学) 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校
2024年度 授業シラバス

授業科目名	動物臨床検査学Ⅰ		科目コード	2401011	
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	1 年
担当教員	猪野 亜里沙				
	実務経験教員（ ☒ 有 ・ 無 ）				
	実務経験内容				
	ペット栄養管理士 臨床栄養指導認定動物看護師1級 大学卒業後約1年間動物園で勤務 臨床栄養指導認定動物看護師1級の受験経験を活かし、また動物園での動物飼育、看護方法を授業に取り入れている				
開講時期	前期・後期・ ☒ 通年 ・ 特別講義 ・ その他		授業コマ数	31 時間	
	☒ 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第4巻 臨床動物看護学			
	著 者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
使 用 テキスト2	書 名	動物看護実習テキスト			
	著 者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社 インターズー			
参考図書	動物病院ナースのための臨床テクニック、犬と猫の臨床検査マスターブック VTの臨床検査ハンドブック、動物看護のための小動物内科学 動物病院検査技術ガイド				
授業形態	☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（ ）				
＜授業の目的・目標＞					
動物病院で行われる臨床検査のうち、動物看護師が行うことが多い検体検査について学ぶ。各検査の正しい手順や使用する器具の取り扱いを学び、検査によって得られた結果が正常か異常かを瞬時に判断し、獣医師に報告できるようになることを目標とする。					
＜授業の概要・授業方針＞					
身体一般検査から尿、糞便、血液、など、動物病院で行われる一般的な検体検査について、それぞれの検査の目的、手技、基準値について理論で理解し、実習につなげていく。					
＜成績基準・評価基準＞					
前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。					
通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とする。					
＜使用問題集・注意事項＞					

<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他>

動物臨床検査学Ⅱ、動物臨床検査学実習Ⅰ、Ⅱ

授業科目名		動物臨床検査学Ⅰ
回	授 業 内 容	備 考
1	臨床検査の基礎（臨床検査とは、検体検査と生体検査）	
2	問診・身体一般検査から臨床検査へ	
3	臨床検査の基礎（検査の基準値、感度・特異度、精度管理）	
4	臨床検査の基礎（検査結果の考え方）	
5	臨床検査の基礎（顕微鏡の使い方）	
6	検体の取り扱い	
7	血液検査（血液検査とは、全血球計算（CBC））	
8	血液検査（血液塗抹標本の作成・染色）	
9	血液検査（血液塗抹標本の観察）	
10	血液検査（血液化学スクリーニング検査）	
11	血液検査（血液化学スクリーニング検査）	
12	血液検査（血液凝固スクリーニング検査）	
13	血液検査（免疫学的検査）	
14	血液検査（血液ガス検査）	
15	前期まとめ	
16	尿検査（尿とは、尿検査とは）	
17	尿検査（尿検査の手順、検査項目）	
18	尿検査（性状検査、尿沈渣）	
19	糞便検査（糞便検査とは）	
20	糞便検査（糞便検査の種類と手順）	
21	糞便検査（糞便検査でわかること）	
22	骨髓検査（骨髓検査とは、骨髓検査の目的）	
23	骨髓検査（骨髓検査の手順、骨髓検査の利用）	
24	細胞診と病理組織学的検査（細胞診とは）	
25	細胞診と病理組織学的検査（病理組織学的検査とは）	
26	遺伝子検査（遺伝子検査とは）	
27	遺伝子検査（遺伝子検査の手順）	
28	遺伝子検査（遺伝子検査の利用）	
29	その他の臨床検査	
30	その他の臨床検査	
31	後期まとめ	

別紙②【「動物内科看護学実習Ⅰ」「動物臨床検査学実習Ⅰ」「動物外科看護学実習Ⅰ」「動物臨床看護学実習Ⅰ」学習成果指標】

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準				
			4	3	2	1	
汎用的技能		自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	学期末に行う実技試験において、手順や器具の扱い方が実習で指導した通りに行われており、設定時間内に終了できる。	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中は教員の指導を素直に聞き、実践できる。教員や他の学生に対する言葉遣いも適切で、実習にふさわしい身だしなみができている。	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習後のレポートに、実践した内容だけでなく反省や改善点、問題点がわかりやすくまとめられている。また、期限に遅れることなく提出できる。	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問し解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。	実習中は常に受け身で、自分から実践しようとししない。うまくできないことがあっても、自ら練習しようとししない。
自律性と責任感		責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。
倫理観とプロ意識		職業倫理の理解	職業人として社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対しての関心が低いため、やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対しての関心が低い。

※評価方法

上記7項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。

合計28点満点中 23～28点が優、20～22点が良、17～19点が可、16点以下が不可

不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。